

Blowers



空技廠新世界計畫。

創刊号

目次

- 3~6 Mental Ranger 文・本居こじ 絵・ただのりな
- 7 お詫び
そして弁解のページ 空技廠横浜評議会
- 8・9 バトル・クラック
緊急レポート A. F. フィネクスレイ
- 10 The CABIN CLASS
主催・香津美どぶろく
- 11~14 MATS・WSラボのご案内 本居こじ
- 18~16 THE CAN OPENER
LUMSKA ただのりな
- 19 Sprit of White Belt
——特口魂—— 空技廠横浜評議会

※ 16~18ページは、巻末から巻頭方向へご覧下さい。

ゲリラ的穴埋めエッセイ・コーナー

「わかばで悪いか！」 本居こじ

「わかば」は煙草だ。つい最近、「echo (エコー)」から鞍替えした。エコーはパッケージが暖色系 (オレンジ色) なんて暑苦しいから。その点わかばはライトグリーンのシンプルなパッケージアートだから、暑い時期向きだろう。(何か、事の本質を外している気もするが)

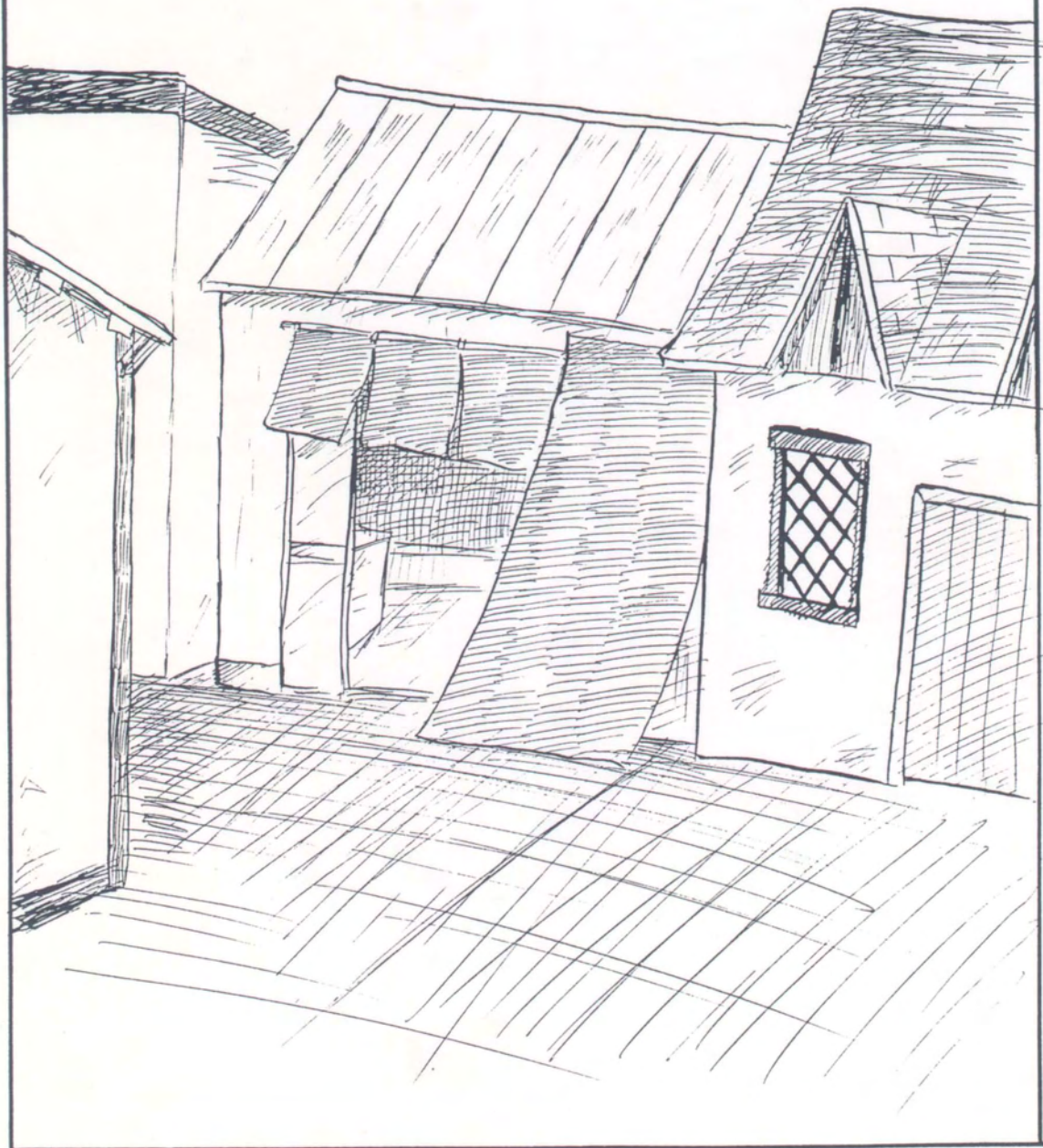
わかばもエコーも、「ジジイ煙草」として世間、それも若い衆たちには蔑まれる傾向にある。しかし、私は大好きだ。そりゃ、多少強いかも知れない。タール22のニコチン1.6だから。でもゴロワースやセーラム (学校で先輩が吸ってる) なんかよかはるかに香りはいいし、それに第一安い! 共に20本入りだが、わかばは140円、エコーは130円。マイルドセブンやラッキーストライク (学校でよく見られる) なんかのほぼ半額! うれしいじゃありませんか!?! (どうも何か違う)

何でみんなバカにすんのかなあ。自販機にもないし。……まあいいや。ささ、皆の衆。大きな声で言おうじゃないか。

「スピーク・わかば！」

※なお、本コーナーは10月半ばごろから「Echoで悪いか！」になる予定です。それまで本誌が続いたらの話ですが。林さん、遊びに行く頃にはエコーを持ってきますから、よろしく。11月頭ですもんね。

Mental Ranger



はじめに

- ①この話の主人公、ミラマー・レキシントンの職業は僧侶で、位は「司祭補」です。これは「司祭」の1つ下です。市井にいる聖職者としては、最もありふれた位です。
- ②この話の世界においては、複数の魔術が存在します。「白」「黒」の2つに大別されますが、この中で更に細かく分かります。「白」は人を益する術、「黒」は害を与える術とされています。「白」の中で最も上位の術は「紫」と称され、「黒」の方の最高位は「闇」と称されています。

序：ある暑い日のことだった。クラコフ教の司祭補で、自宅に茶店兼人生相談所を営んでいるミラマー・レキシントンは、使いに呼ばれて町医者ラング・テクノヴォートのところへと、日陰を選んで小走りに道を急いでいた。彼女は25という歳にもかかわらず、それなりに有能な聖職者だった。

「何だか知らんが怯え切っててね。私じゃ手に負えない」

そんな意味の事が、手紙には書いてあった。…よほど変なものに取り付かれたか…？彼女はそう思っていた。

走るリズムと手の動きに合わせて彼女の錫杖が揺れ、金輪が触れ合ってシャン、シャン、シャン…と規則的に鳴っていた。

道が下り坂に鳴って、足が少し早まったころ。…ふと、彼女は足を止めた。錫杖の鳴りがおかしい。かすかな妖気を感じて、彼女は振り返った。…しかし、そこには何も見当らなかつた。ただ、屋下がりの静かな路地が続いているだけだった。

「職業病か…？」

彼女はつぶやくと、再びラングのところへと急いだ。

1：「アホらしい！」ミラマーは茶をすすりながら心底呆れ切って言った。「アル中と物の怪の区別も付かぬのか、おのれは」

「いや、お恥ずかしい」ラングは毛の

薄くなった後頭部を掻きむしりながら、苦笑いを浮かべた。「まったくお恥ずかしい」

「実に情けない」

「まあそう言いなさんなよ。そうでなくても、ちょっと話したい事が有ったんだ」

「なにを？」一瞬ミラマーの表情が固くなった。

「最近、この町で怪しい商売が店開いたの知ってるだろう？」

「いいや！」

「あのなあ…」ラングはげんりとなった。「そんなことだから、いつまでたっても司祭になれないんだぞ」

「余計な世話だ」

「…まあな。それはいいにしても、その怪しいのは、術師が“癒し”の呪文をやたら使うんだな」

「どこがおかしい？」ミラマーはまた、茶をすすった。「当節、そんな事は下っぱの貧乏術師ならば当たり前であろう？“癒し”など、リポディの小ビン1本で10回は使える」

「ところが、ここからがおかしいんだな」ラングは座りなおした。「こいつは実話で嘘じゃない」

少しの間、ミラマーはラングを凝視した。心を読んだのだ。やがて、彼が言うことが真実であることを悟ると、湯呑をテーブルに置き、言った。

「…言うてみ」

「まず聞くが、お宅のどこに来る相談客の数は減ったか？」

「…少しな」

「やはり、な。そこでは、人生相談もやってるんだ。…そして」彼は一回言葉を切った。「相談した奴は、必ずその日は人が違ったようになる」

「ふん」

「そして、そこへ行った奴は十中八九、また訪れる。…術師が美女な事も事実なんだが、あの生真面目な…お前さんも知っているとおり、ジュリアの色仕掛けにもかからなかつた、あのツイイスまでがだぞ、この前風邪を見てもらいに行ってからというもの、治つてからも毎日のように通いだした。

そして、だ。こいつは真面目な奴ほどその傾向が強い。…それに、いい

かげんな奴は、むしろ遠ざかるんだな」

「例えば、何だ？」

「遊び人のポター、あいつは女と見ればすぐに見境無く手を出すが、あそこの術師に限っては、見向きもせん」

「確かに……おかしいな」

ミラマーはあごを撫ではじめた。ラングは続けた。

「まだあるぞ。近所に住む奴の話じゃ、真夜中になると時々その女の声で訳のわからん言葉だの、甲高い笑い声だのがするらしい。それに、俺も最近になって知ったことだが、この真面目な連中のうち、独身で人付き合いの無い奴ばかり4人が、消えた。でもって、笑い声は、そいつらが消える晩には必ずしている」

「確かに怪しいな……」ミラマーは立ち上がった。「そやつの居場所は？」

「まあ、そうあせりなさんな」ラングは手を上げて制した。「奴は、黒魔術を使う」

「まことか？」

ミラマーの狼狽した様子に、ラングは満足したようにニタリと笑った。



「そうとも。俺が見物に行った時に奴の所のテーブルに描いてあった模様、あれは巧妙にカムフラージュしてあるが、間違い無く黒魔術の魔方陣だ。俺は見た通りのやぶ医者だから、奴の術には掛らなかつたがね」

「なるほど」

「奴の家はワーナー通り、ハインツの宿から町の外れへ5軒先だ」

「ふむ」ミラマーは首をかしげた。

「より、怪しくなった」

そこは、先刻彼女の錫杖の鳴りがおかしくなった辺りだった。

そして1時間後、問題の建物へ入っていく、私服に着替えて町娘を装ったミラマーの姿があった……。

2：ミラマーが建物に入ってみてまず目にした物は、診療所にはよくあるような待合室であった。

「ごめん……くださいな……」

反応はすぐに来た。中から黒いローブを身にまとった若い女性が現われると、彼女を奥の間へ招き入れた。そこは、高いところにある小さな明かりと

り以外に窓がなく、屋根から吊るしたロウソクのちょっとしたシャンデリア風の照明が、唯一の明かりのようだった。

およそ8畳程度の正方形の部屋の中央には、その部屋には大きめの円卓が置いてあり（ミラマーもその上の魔方陣にはすぐ気がついた）、2つの背もたれの高い椅子が向かいあって置かれていた。件の女性は、扉から見て奥の椅子につくと、ミラマーにもう一つの椅子をすすめて言った。

「私はリュルカ・リスノフというものです。何を悩みますか？」

ミラマーは目を見張った。若かった。そしてあまりに美しかった。頭と心に広がりつつあったしこりを振り払うかの様に頭を振ると、彼女は言った。

「別に悩みという程の物でもないんですが……ただ、不安の芽は早いうちに摘み取るべきですから」

「なかなかしっかりした方ですね」

「ええ、でも、最近では話し相手が少なくなってるね。かなり参ってるんですの」

ミラマーはそれから注意深く話を展開した。極力相手を刺激しないように、こちらの意図を探られないように……。そして、そんなミラマーを、リュルカの方でも注意深く観察した。これまで何度となくそうしてきたように、初めての客がどんな素性のものなのかを知るために……。

リュルカは思った。この女は、一見したところ普通の町娘と変わらないが、どうも何かが違う。何か、不思議な

「力」のようなものを感じるのだ。その「力」は、今まで彼女が知ってきたものとはまるで違うものだった。彼女の心に、おぼろげながら危惧の念が形を現し始めた。しかし彼女は、やぶへびになることを恐れ、ミラマーがしたように話を進めさせた。

やがてミラマーが、おもむろに椅子から立ち上がった。

「時にリュルカよ」彼女は言った。

「貴様は無の……それもかなり高等な、『闇』の魔術を使えと見た」

リュルカは自分の優柔不断を呪った。危惧が早くも現実となった。

「しかし、『白い術』に対する経験はまだ浅い」ミラマーは続けた。「貴様は初めから私の心を読もうとしていたようだが、遂にできなかった。無理は無い、シールドしてあったのだから。しかしこれは、少し『白い術』に知識があれば、すぐに破れる物だった。

そして、私の心にだけ力を集中したばかりに、こちらに気がつかなかった」

ミラマーは濃紺の、丈の長いスカート（こ）のポケットから、小型の御幣をとり出した。先端の細長い白紙がバサ……と音を立てて揺れた。リュルカは思わず、腕で顔をかばった。

「ぐ……っ！」

「大方今まで殺した連中は、魔王の“供物”にしたのであろう。そいつらを返せとまでは言わん」ミラマーは御幣をポケットに戻しながら続けた。

「私はこれを言いに来た。この町から出て行くのじゃ。さもなければ、『黒い術』から足を洗え。1週間の猶予をやろう。どんな事情があろうと、その間にどちらもとらない場合は私が、この手で貴様を殺す」

「……」

「どうした、返事はっ！」

ミラマーは怒鳴りつけて相手を威嚇した。

「貴様一体……何者……」

「コトドイ通りの茶店屋の女将……またの名を、ミラマー・レキシントン」

「貴様が、あの……」

「その通り。さあどっちをとる？今ここで貴様を昇天させてもよいのだぞ！」

そこまで言い終えたころだった。リュルカの様子が急変した。

「ふふ……そうか、貴様があの……」

リュルカは不気味に笑いながら、ゆっくりと立ち上がった。突如怒濤の如く押し寄せた邪気に、ミラマーは思わず後退りし、……一拍遅れて御幣をまた取り出した。

（続）

お詫び そして弁解のページ

まことに申し訳ございませんが、先に発行いたしました「Blowers 創刊準備号」で予告されていた企画のうち、次のものの中止が決定されました。ここに各担当予定者の「弁解」と共に発表し、深くお詫び申し上げます。

☆ 「RAIL LORD」

正宗征士：結局、各種建設資材及びダイアグラム関連のシステムがまとまらなかった。いくつか案はあったが、どれも処理に異常に時間のかかるものであり、とても実用には耐えるものではなかった。こんな結果になってしまい、残念かつ恥ずかしいことこの上ない。

☆ 「The Blue Ribbon」

香津美どぶろく：本当なら発表できたんです。でもテストプレイの段階で、「システムブレーカー」岬当麻氏の魔手を切り抜けることが出来なくて……。本当にごめんなさい。次回もっと柔軟なルールを作れるように勉強しますから。

☆ 「D. P. C. バスター エージェントバーニー」

菊地（代行）：担当の竹篠さんが忙しいんだか何だかで音信不通になってしまったので。ペアの「ピースプレッサー・マヤ」については、責任持って単発作品としてやる予定です。現在、イラストレーターについてテクポリ方面で交渉に入りました。話がまとまり次第連載開始です。

菊地：（林家三平風に）ど～もすみません。そーゆー訳ですんで、その辺の固いものとか手に取ったりしないように……ああっ、女神さま痛い痛い、物を投げないで。

とにかくPBMについて、もすこし事情を解説させていただきますと、RLの方は弁護の余地がないとして、BRの方はちょっと悲しい事情があるんです。

初のPBM「A-Strike（アルファ・ストライク）」で、見切り発車やったツケが開始後にドッと回ってきてる（現在進行形）反省もあって、我々はシステムがある程度まとまった段階で内輪でのテストプレイに持ち込む訳です（外部からの持込みはこの限りにあらず）。そこで「システムブレーカー」岬当麻の登場となります。彼はルールの「穴」を見つけ、その範囲内で勝手気ままに振る舞うのです。これにマスターが素早く対応できれば合格、できないようなら不合格というランク付けで厳しく取捨選択する訳ですね。

何しろ、みんな多忙なものですから、かつてのASみたいに処理と同時に改良していくなんで器用な芸当は難しい訳ですよ。処理だけじゃなくて、たまには自分たちでもSLGとか遊びたいし。期待して下さった皆さん、本当にすみませんでした。どうかJAROに電話するのだけは勘弁してください、ということで。

バトル・クラック緊急レポート 第1回

さて、今回私がやって参りましたところは、フラードルにありますバトル・クラック（以下B・C）プライベートチーム『ネットプラス』であります。

B・Cは、クラックマシンと呼ばれるエアバイクを用いて直径20Mのチューブによって構成されたコースを走る競技です。年間5戦が行われチャンピオンを決定します。そして、B・Cの醍醐味といえば、断然、格闘戦にあるといっても過言ではないでしょう。ただ速いだけでは勝つ事は出来ない！これが私たちを興奮させるのです。

さて、私はこのような華やかな舞台とは裏腹に、レースを陰から支えてくれる人たちに今回はインタビューしたいと思います。では早速格納庫の方へ行ってみましょう。

フィ初スレイ（以下フィ）「こんにちはー、フィネクスレイです。メカニックのトオヤマ・ユキさんいらっしゃいますかー？」

「……………」

フィ「ユキさーん、いませんかー……………おかしいなー、ちゃんと今日伺いますって連絡したはずなのに…。あれ、何だろこれ…」

チェリス（以下チェ）「その男ー、動くなー！」

フィ「えっ？」

と振り向くと、

チェ「動くなと言ったはずだー！」

と、ラリアート炸裂っっっ！

フィ「うあああー！」

弧を描いて20M程飛んで行くフィネクスレイ。ガラクタの山に落ちた。

チェ「あーやだやだ、男に触っちゃったよ、ああ気持ち悪い。……ユキ姉起きなよ、ユキ姉。

キ「……ん？…んーん、あれっ、ジュンナどうしたの？」

チェ「ユキ姉がこんな所で寝てるから、もうちょっとで痴漢の餌食になるところだったんだよ。全くユキ姉は暢気なんだから。

キ「えっ、そうだったの。でもいいじゃないっ、何もなかったんだから。それよりチェリス、今日取材の人が来るはずなんだけど知らない？」

チェ「知らないよ。

ジュンナ（以下ジ）「きゃー、そ、そ、そこのガラクタの山から、あ、足が出てるー。

アイ（以下アイ）「どれどれ、あっ、本当だ、足が生えてる（笑い）。なーんてね、冗談ですよ。全くジュンナさんは慌てんぼうなんだから。この前捨てた人形じゃないですか。

ジ「そうだったっけ？」

アイ「それよりおユキ姉さん、マシンの方の出来はどうですか？」

キ「んーん、そうねえ、アフターバーナー（A/B）使用時間の延長と、スタビライザーの変更ねえ。A/Bの方は何とかなるんだけど、スタビライザーがねえ。オノンさんは設計しなおしてくれないのかなあ。

アイ「オノンはおユキ姉さんにまかすって。

シャルル（以下シャ）「おーい、みんな、出来たぞー。革新的なプログラムが。

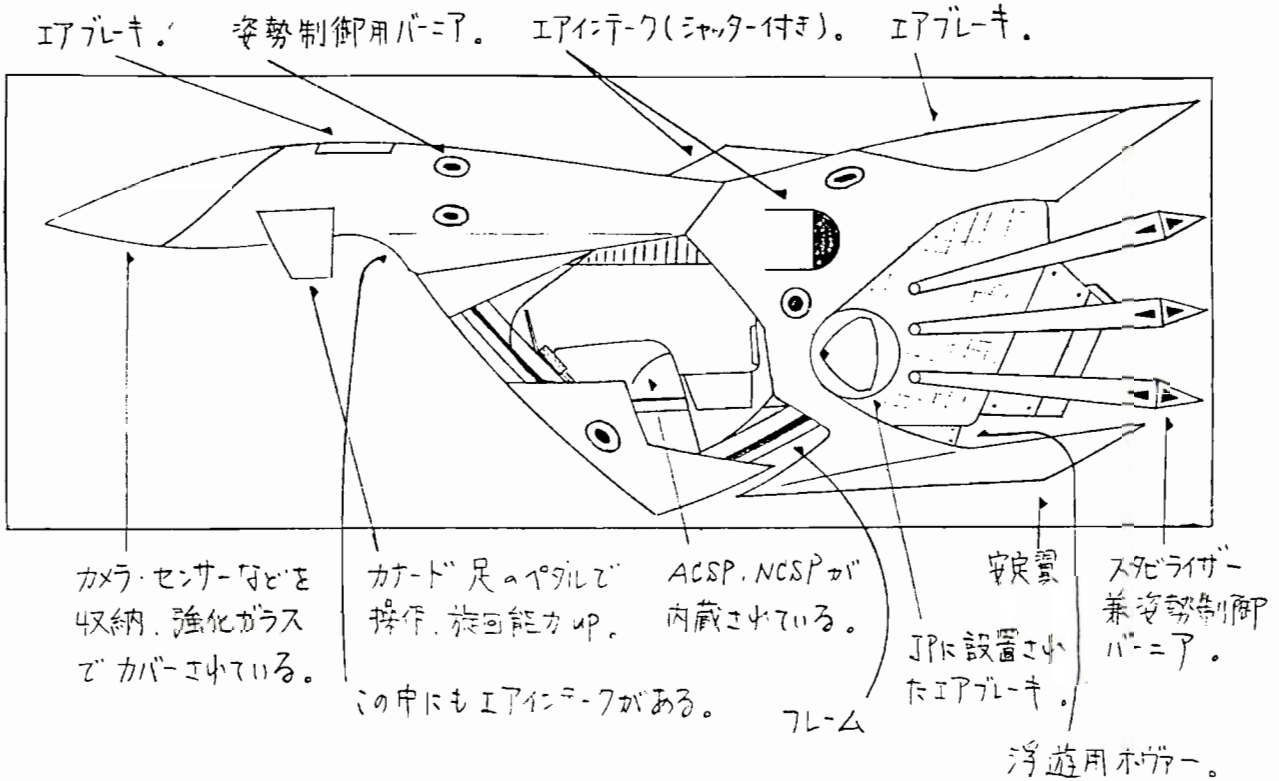
チェ「どんなんだい。

シャ「今回レースを見て気づいたんだが、どうもウチのマシンは挙動が激しいんだ。そこで姿勢制御バーニアの出力を全体的に13%アップさせたのさ。まだ他にもあるがそれは次回という事で。」

さあ、人形に仕立て上げられたフィネクスレイの運命は？おユキ姉さんの新設計とは？シャルルのプログラムは成功するのか？次回ご期待。

チーム "ネットプラス"

FDC ロジータ RX110A/1



FDC ロジータRX110A/1

使用チーム：ネットプラス
 使用ライダー：アイワ・マリス
 設計者：オノン・ラマージ・ニスコータ

SPEC

全長：3.58m
 全高：1.35m
 全幅：1.50m
 重量：1.400kg
 エンジン：FDCランタE-EA
 推力：1.680kg (A/B: 3.360kg)
 最高速度：338km/h (A/B: 478km/h)
 ※A/Bは1.2秒まで連続使用可能。使用回数は2回まで。
 データ：JP=2 運動性=C (推定) 加速性=S (推定) 強度=3
 コメント：カナードにより、旋回性はメーヴェルをも凌ぐ。

The CABIN CLASSES

こちらはネットPBM「クレギオン」参加者向けのコーナーです。ネーミングの由来は「二等船室」とでも申しましょうか。一等より気が張らず、三等よりは格が上、ということとして。ですから、「クレギオン」に参加している方は、こちらにもなるべく手を貸して下さい。なお、本コーナーではなるべくキャラ名をもってPNとする方針でいきますので、キャラ名の併記は忘れないで下さい。じゃ、各コーナーの紹介を。

① 自己紹介

これがないと話にならない。最低限必要なのは、「植民者番号」「現在地」「名前」の三点。他はなんでもOK。キャラの口癖なんかをそのまま使ってくださいと、なおいいでしょう。「ここだから言える」キャラ設定裏話なんかもいいかも知れない。同一キャラが何べん出ても構いません。イラストはあればなおいいでしょうが、特に必要ありません。

② 二等談話室

ここはグレイバールまたはフォート・ビストニアス近在の方専用です。私のキャラ、「レイコ・ヒュウガ」（25852827）がこの区間の定期船の操舵手であることを利用したものです。キャラの皆様は「クリッパー8522」に乗船していただき、「適当に」「何か」してもらっただけのものです。私どもが微力を尽くして一篇の読み物に仕立てます。

③ アングラIC

上記「二等談話室」の全国版みたいなものです。伝言板代わりに使ってください。

……とりあえずは以上です。では②の舞台、「クリッパー8522」の説明を。

この船の所属は連合条約運輸当局の外局「運輸公社」で、大きさは全長320m（機関部含む）。載貨重量トン1万5千㍊の貨客船（容積比率は6対4）で、大気圏再突入能力はございません。船室は二等と三等の二クラスございます。三等船客が二等の公室を使うことはできませんから、当然舞台に登場するのは二等船客の方だけとなります。……心配はございません。公社は基本的に「正確、安全、低価格」がモットーですから、定員に空きがあれば一般の方でも気軽に二等船室をご利用いただけます。

就航中の航路は「フォート・ビストニアス循環線」と申します。これはグレイバール三太陽系を結ぶ円にフォート・ビストニアスへの線を加えたもので、近い将来バールスラントを経てフロンティア・ゲートまで航路を延長する計画もございます。

……ちょっと気取った広告調にまとめてみました。それでは次、①の例も兼ねて、レイの自己紹介でもやってみましょう。

うらはレイコ・ヒュウガ。「日向 玲子」が正式な書き方なんやけど、カタカナの方が一般化してまってっさけね。フォート・ビストニアスに住んで、運輸公社の三等操舵手やってる、25歳の独身や。植民者番号は25852827。これからよろしゅ。

詠りは大学時代にうらの先祖の研究やってたせいや。いつか本当に地球行こと思うてる。でも、つい最近まで難民キャンプで先生の代わりやってた時は、えらい難儀やったわ。…第一種小学教員免許も持ってんや、うら。うん。……こんなもんでええやろか？

こんなもんでいいんです。

レブカウンター追悼企画

「MATS・WSラボ」の勧誘広告

はじめに：

この原稿は、本来大まじめなものとして、1990年内に作られました。ところが皆さん御周知のように、母体の「Game Graphix」がボシャってしまったため、ただのジョークとしてしか用をなさなくなってしまったのです。もったいないので、ここに原文のまま掲載致します。皆さん、昔をなつかしみませう（苦笑）。

☆MATSとは---

Multiplicity Astronautical Transport Service（総合宇宙輸送公社）の略称です。宇宙時代に対応して国連が設置した公益機関で、地球と月面都市／スペースコロニー（この時代なら月面都市やコロニーの1つや2つはあるはず）の間をシャトル輸送による太いパイプで結ぶことを目的としています。この機関によって人と物の流れはよりスムーズになり、人類の平和的発展が促進されるのです。また、運賃収益で国連の財源も確保され、一石二鳥というわけです。

MATSは定期旅客／貨物、チャーター普通／危険物の4部門に別れています。それぞれ読んで字のごとくで、一般には順にLP、LC、CNそしてCD部と略称されます。

☆WSラボとは---

Weapon System laboratory（武器システム研究所）の略です。CD部の管理下に置かれています。CD部は、文字通り危険物輸送を専門に行う部門です。ただしこの場合の「危険物」とは、爆発物などそのもの自体が危険な場合だけではありません。高額の現金、極秘文書、あるいはVIPなど、「輸送することに危険を伴うもの」も含むのです。そして後者の場合は特に、空路だけではなくその前後の陸路輸送もMATSが行うのが普通です。そのためには輸送車もある程度の防御能力が無くてはなりません。どうすれば効率よく守れるのか……その研究のために、WSラボはあるのです。

☆REV COUNTER 参加要領

WSラボの目的とするところは、「最低限の武装、最大限の防御」です。基本はあくまで輸送効率第一なのです。武器を多く積めば、その分積載可能重量が減ります。従って、次の制限を設けます。

- ・各車非武装が望ましいが、武装する場合には…
 - i) 手持ちの場合：1種類1個まで。弾は20セット分まで。
 - ii) 車体装備の場合：1種類2個（連装）まで。弾は各砲10セット分まで。また、その目的上、次の制限があります。
- ・二輪車は使用禁止。
そして走行については、次の制限があります。
- ・決してこちらから他車に攻撃をしかけてはならない。

☆まとめ。

そもそも「MATS」とは私が「Blowers」とは別の本、「SHIFT」という本に連載している「METEORIC EXPRESS」というSFにてでくる組織で、国連ではなく「銀河連合」が後ろ盾になっています。そうでなくても22世紀の話なんです、これ。「REV」は21世紀の話ですよ。で、「REV」にあわせて設定を手直しました。「WSラボ」もこの時できました。

「REV」でチーム募集がはじまったとき、まず思いついたのが「お役所チーム」があってもいいじゃないか、ということでした。そこから考えが進んで、お役所+未来的→MATSという、いささか強引な連想が発生したんです。

「MATS」の語源は米空軍のMilitary Air Transport Service（今のMACの前身）です。これにあわせて、あんなムチャな英語になってるわけです。では、最後に。

- ・チーム名には「MATS」と記入。
- ・車名には「WS」を冠する。

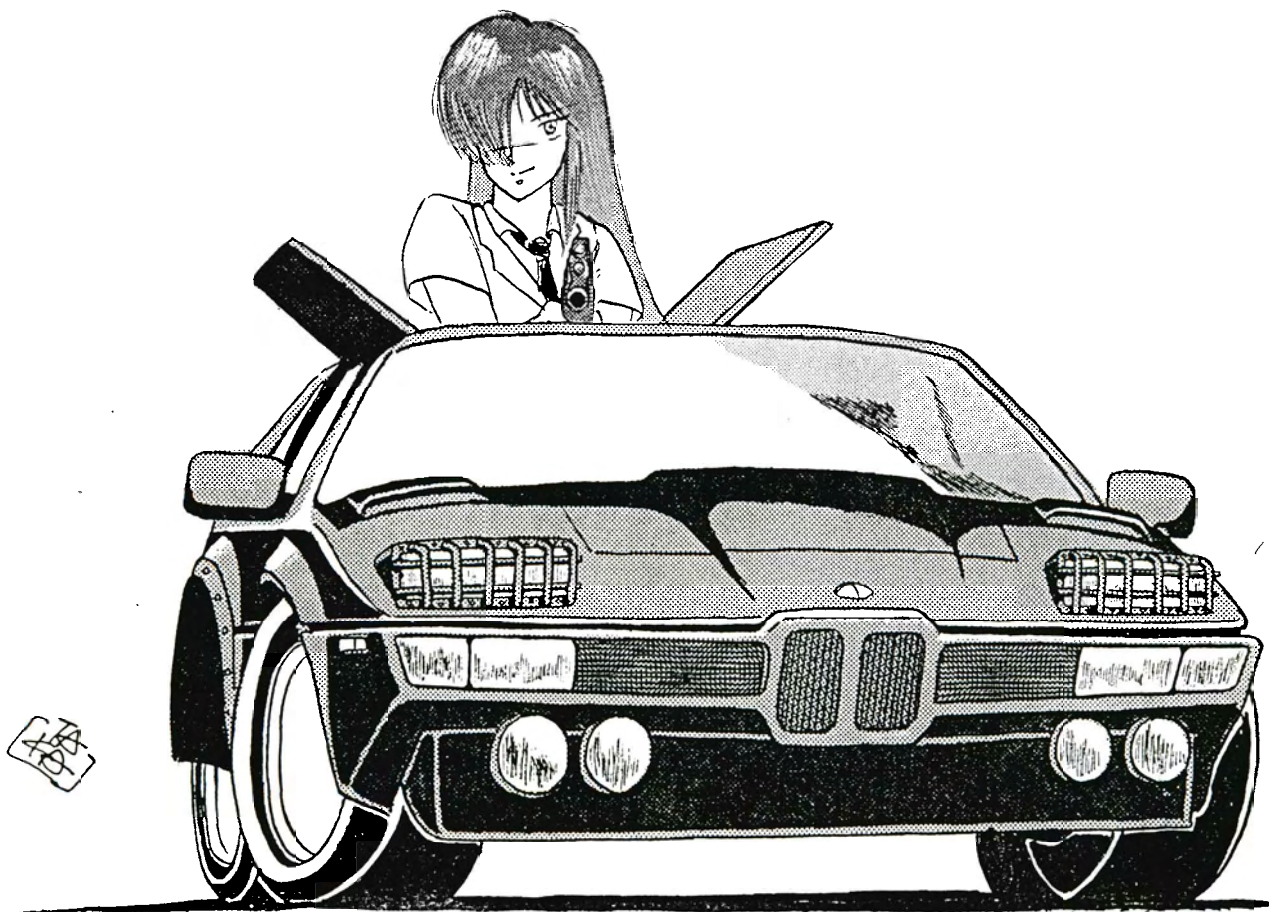
次頁からは車両広告です。

・タイプ BMW M1 EC

(Escort Car) クラス：A

輸送車を護衛する。任務の性質上瞬発力と機動性を重視し、装甲は必要最低限に抑え込んだ。武装は手持ち式とし、天井を開閉式として全周射界を確保してある。射撃時は開いた天井板が側方防御の役をなす。例では10mmSMGを使用。

燃料は水素を使用し、実用性の向上と共に無公害化を狙っている。リトラクタブルの前照灯は固定して耐久性を上げた。同時に防御フェンスも張ってある。フォグランプはシビエの丸灯を標準装備。大きさ、重量ともに空輪が容易であり、性能も適切で扱い易く、量産型はMATS内に普及している。

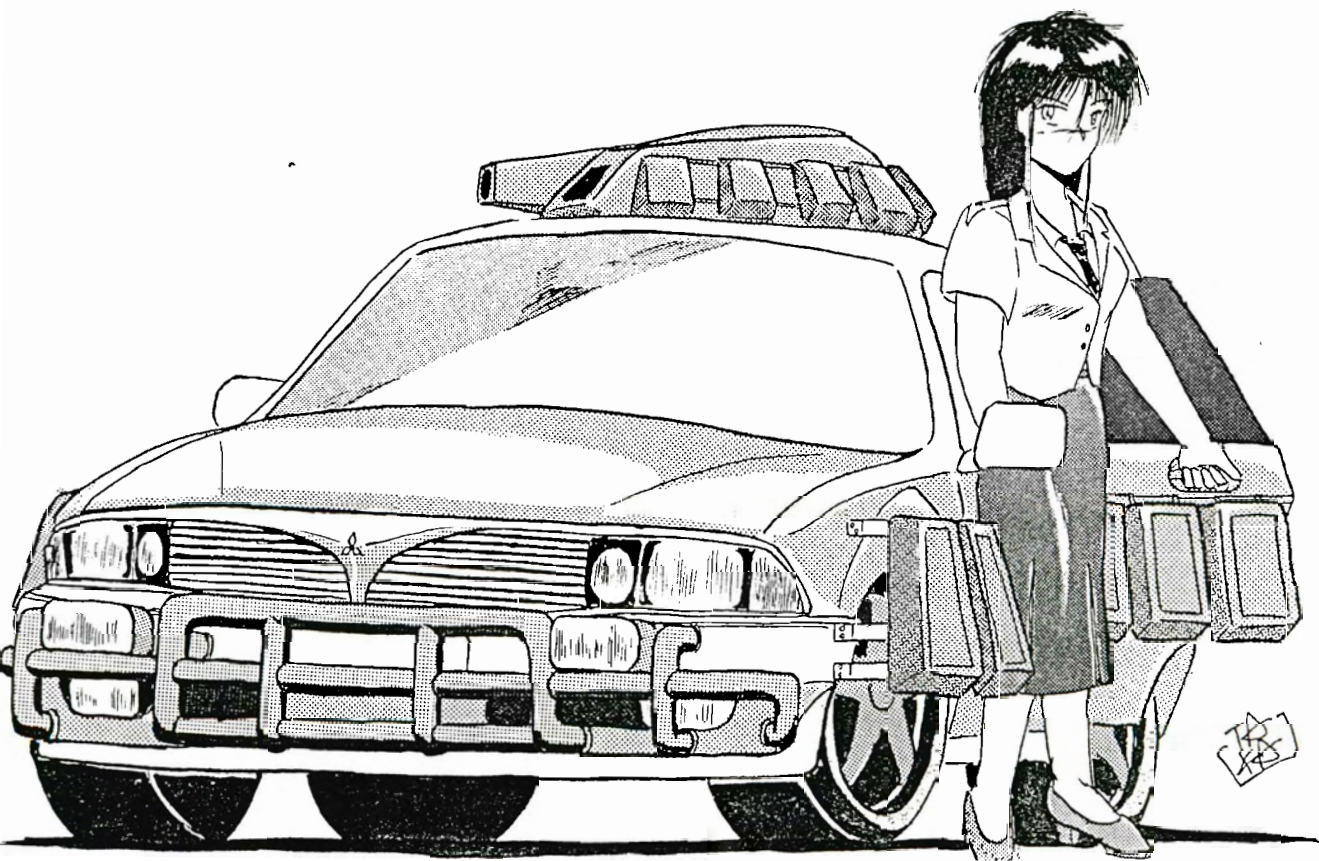


・タイプ 三菱 デiamondテ PC

(Passenger Car) クラス：B

要人護送車。まだ試作段階である。護送が唯一最大の目的であるため、要部にリアクティブ・アーマーを追加した。ために運動性能は落ちている。

自衛用に40mmグレネード・ランチャー装備の砲塔を備えるが、基本的には前頁のM1のような護衛車に防御を依存する。様々な装備品のために車内もかなり狭くなっているが、空輪を前提としているためにいたしかたない。この車も水素エンジンを搭載している。



RUN only to
RUNNING.



MAS



・INFORMATION・

早い話が、私(達)が作った本を買ってちょーだいと、やーやーおけなのだよ。よろしくねーぞ

発行/ CLUB 02
 カルラ本 **ハロウィン**

お友達2人と作った「カルラ舞う!」の本。制作期間が短かか、たにもたたおらず、月刊ハロウィン誌上で行われた「カルラ本大賞II」で見事(?)三席・交幻賞を1た1た本。(うん、ミスティア)読んでみてちょーだいね

- A5 P60 表紙2色 紙替有
- 送料 610円(300円のカケ+10円切手)

発行/ クレジット
 エイジ 発行/
 個人誌 **GOLDEN AGE**

無謀!! たたのいな完全オリジナル個人誌。(売れねーぜ、こんなの)初めての個人誌なのであつな、かー本ですか、どーかどーか見てやって下さいましな。アンケートにお答えいたただくと粗品があるぞ!! (だから何だよ)

- A5 P36 表紙2色 紙替・イン替有
- 300円(カケ)+175円(切手)

▼ 果てな中心のマンガ本が細いの世界のチキンを読んでみてちょーだい...

▼ 果てな中心のマンガ本が細いの世界のチキンを読んでみてちょーだい...

▼ 700円、1000円、1500円、2000円、2500円、3000円、3500円、4000円、4500円、5000円、5500円、6000円、6500円、7000円、7500円、8000円、8500円、9000円、9500円、10000円



個人誌の方は
 マンガ2本
 下ります。
 ほのほの(?)と
 ちんと暗めの
 お話しです。
 感想もか
 けて下さ
 すと
 幸せ

たたのいな オリジナル便せん(新)もあります。

- B5 両面77x77 黒刷 1セット 2種×6枚
 1セット 100円(カケ)+120円(切手)
- 2セット 200円(カケ)+175円(切手)
- 3セット以上 セット数×100円分のカケ
 +250円切手
- 上記の積部の所まで!!

• 千円もありますか書いてあることほほほ同じです。でも一応 ほい方は62円切手を同封どうぞ。• 申し込む際は11ターンのアドレスをはきりと書いておいて下さい。あつなカード(シール)同封だと嬉しい。お互い気持ち良く通販する為にマナーには気を付けてましよう。• アンケートも行うですがその他本の感想等送っていただけると超嬉しい。切手同封できると返事かれますか。やーやーおけな返事は怪しい...

From GREEN PARADISE/たたのいな

THE CAN OPENER LUMSKA

第 2 話

ラムスカ事始め



△と名に正式名称を 取って下さい



描き述ホ。

THE CAN OPENER LUMSKA

第 1 話

ラムスカ誕生!



カオカ変わるや 68



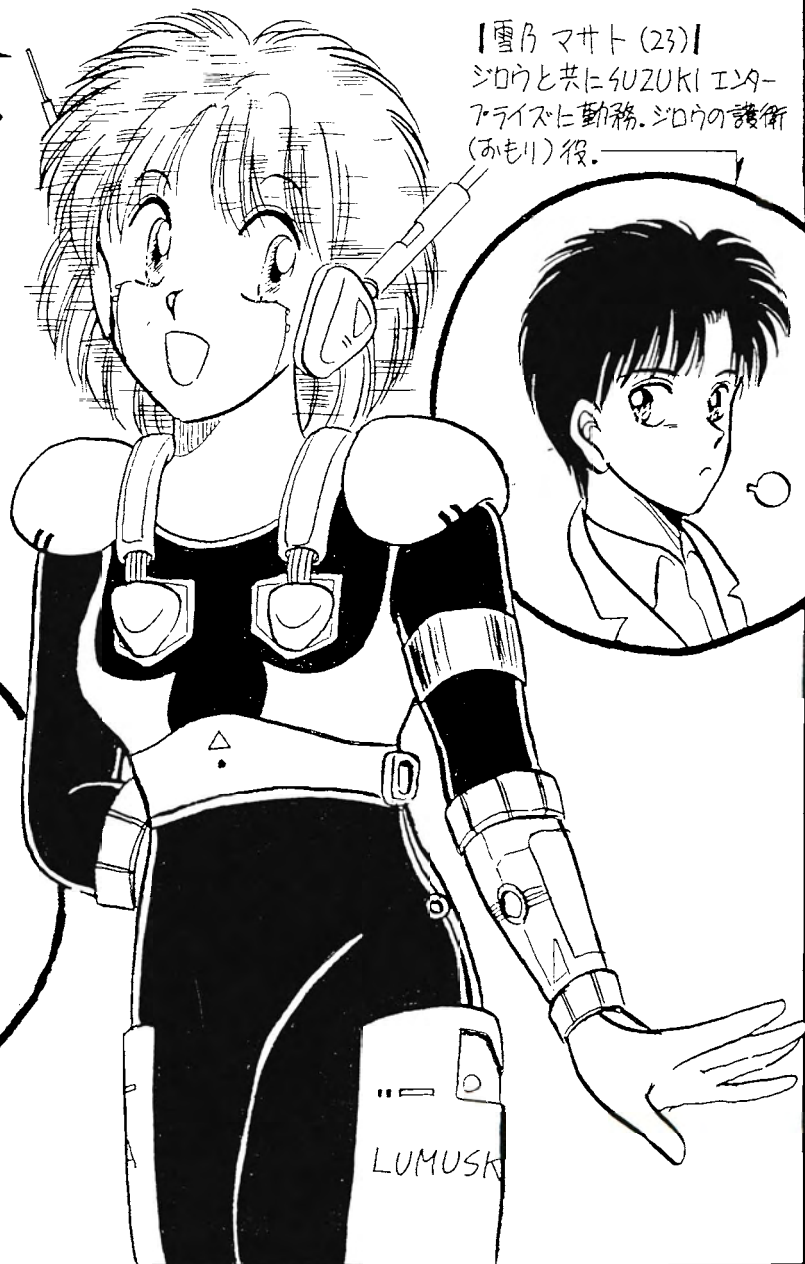
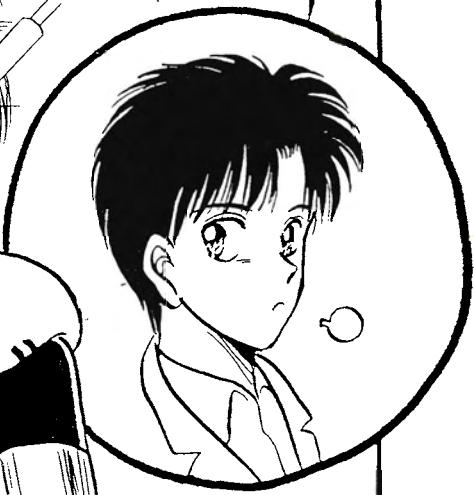
GGを讀んで11F長11子の皆21は僕21ら、11るF3-カ

THE CAN OPENER LUMSKA

BY 藤の川なな

【雪乃 マサト (23)】
ジロウと共にSUZUKI インター
プライズに勤務。ジロウの護衛
(おまわり) 役。

【ジロウ・アンダーソン (19)】
弱冠16歳で博士号をとった
ハカと純一重の天才
日系子だが現在は
日本に帰化している。



•時は20XX年。場所は多国籍企業SUZUKI インタープライズの本社がある日本の某地方都市。(何と云っても云てくれい) これは稀な頭脳の持ち主。ジロウ・アンダーソンと雪乃のおまわり役の雪乃マサトとジロウが造り上げたアンドロイド(?) ラムスカの物言者である。(何だかぬー00)

Sprit of White Belt——特口魂——

永：何だ、このリンドバーグ（註1）みたいな命名は。
菊：見ての通りやけど。（註2）
岬：わかんねえって、大抵の読者は知らねーんだから。
菊：今は昔、一等車の窓の下あ白帯が巻いてあつての……
香：一等って「口」でしょ？それって青帯じゃなかった？
菊：誰や、そんなんに教えたん。
香：セーちゃん。（註3）
岬：出たよ、あの素振りオタク。
菊：まったく……あんね、「口」は二等。戦後ずっとあとになって等級改正があつて、それから青帯が一等に格上げされんにやわ。
字：そう。それで白帯も青帯になったと。通称「特口」てわけ。
岬：よ、ご兩人！
菊・字：あ、あのな～凶
香：でも「特口」って何だかアンデッドみたい。
永：ドクロ（註4）だ、そりゃあ。
菊：んで、そろそろ本題に入るが……今後このコーナーで、本部スタッフの後記に代えよ思うんにやけど。
永：オレは降りるぞ。スペースの無駄だ。
菊：あ、そ。ほな30字前後で後記の文作つてね。
永：なに？（註5）
岬：ここは大人しく従つといた方がいいと思うよ。
永：（しばらく逡巡する）……30字だな。いいだろう。
香：わあ、言うう！
菊：じゃなるべく早めに切り上げっさかい、ペーゲー（註6）でもやっとして一な。
永：わかった。
岬：……と言いつつ「FOX Y 2」に手を出したぞっ！
菊：おう、誰んやね。
字：あちき。香津美に貸すの。（註7）
菊：前から言つてっけど、俺の面前でHソフトは……（註8）
永：誰がやるか！……どれだ、大戦略は。（註9）
（ 中 略 ）
菊：……と言うわけで、「ブロウ」も本始動したわけだ。（註10）
岬：表紙はただのりな大御神だし。
字：ものの見事に遅れたし。
香：言うことなしですnee。
菊：すばらしい段取り。プリーマ！
岬：流れるように進むnee。
字：次回も買ってくれる人がいたら、万々歳ですわあ。
岬：んだね。
香：おてまみ待つてまあす。
菊：「大河空戦PBM A-Strike」もよろしく！二倍楽しめる……と思うので。
岬：最後に本音が出ましたな。

註1：バンドではない。

註2：最近菊地は福井弁中毒である。

註3：正宗征士のこと。

註4：スケルトンのことらしい。

註5：永平寺は50字未満の短文が苦手である。

註6：PG。パソコンのゲーム。菊地はドイツ語中毒でもある。

註7：これだから今日びの女学生は……。

註8：菊地はコチコチのカタギだ。

註9：へたの横好きである。

註10：前振りの長いこと……。

後記

・この本はナウなキミたちの本ではありません。これは私だけの本です。

(C:ビートたけし) (菊)

・おほほほほほほほほほほほほほほほほほほ……
……………はあ…………… (宇)

・三十字が何だ! (あ! やりゃあつた: 菊)
(永)

・うわあ〜い、のっけから修羅場だあ〜い。
(岬)

・次回からPNを使うぞ。長船 吉光だ。ネタわかった奴あ、手紙くれ。 (正)

・皆さん、どうもすみません。JAROだけは勘弁して下さい。 (香)

・全て私が悪いんです。無力な私を許してくれる心が宇宙の様に広い方はおられますか?
(た)

Staff

編集長: 菊地研一郎 / 編集員: 宇垣麻美
永平寺九頭龍 / 筆者: 正宗征士 岬当麻
本居こじ 香津美どぶろく / 絵: 孝行始
ただのりな (脱稿順)

Blowers 創刊号
第2巻第1号 (通巻2号)
平成3年6月1日発行 価格300円
(送料込)

編集人・発行人 菊地研一郎
発行所・印刷所 「空技廠」



※本誌記事の一部または全ての無断使用を禁じます。

今月の裏表紙
空技の北の方・宇垣麻美の擬似肖像画
画・正宗征士



次号は6月末までに
発行したいです……。

